

ゼミナール紹介

担当者名	大橋 洸太郎
e-mail アドレス	kohashi@bunkyo.ac.jp
研究室	5号館4階 5406室
在室曜日・時限	火曜日 3・4限
個別相談など (日時・方法)	別紙の通り
選抜方法	
ゼミナールに 関連する科目	データ分析に関する科目
2021年度担当科目	データ分析総合演習 情報技術総合演習 基礎演習A 基礎演習B 総合演習B 統計学入門 調査集計法A 調査集計法B 情報学序論 情報社会における計量社会学入門
授業概要	<p>本ゼミナールではデータ分析を行うことを主眼に置いています。データをまとめ、その内容の重要なポイントを読み取り、分かりやすく相手に伝える、そのような力が得られるようにしたいと思います。</p> <p>本ゼミナールでは、以下の2つの目的を持っています。</p> <ul style="list-style-type: none"> ①データサイエンス分野の分析手法の習得 ②分析に基づいた商品開発の体験 <p>春学期には、データ分析に用いるプログラミング言語の使い方やデータハンドリングの手法を身に着けることを最初に行います。その後、習得したプログラミング能力を活かしたデータ分析手法を学び、グループや個人での分析や発表を通じて、エビデンスに基づいたコミュニケーションを行うスキルを磨きます。プログラミング言語としては「Python」を想定しています。</p> <p>秋学期には、調査を通じて収集したデータを基に商品開発を行うプロセスの一例を学びます。まず商品コンセプトのポジショニングを行い、ニッチな視点を見出し、新たなコンセプトを設計します。次にそれらのコンセプトに相応しい商品名を選定し、コンセプトに含まれる要因の効果の大きさを測定します。グループによる商品開発を通じて、チームとして成果を作り上げるための協調性を磨きます。また、新たにデータ分析用のプログラミング言語を学び、応用力を高めます。使用する言語は「R」を想定しています。</p>

ゼミナール紹介

担当者名	石井健一
e-mail アドレス	ishiiken@shonan.bunkyo.ac.jp
研究室	3315
在室曜日・時限	金曜 2 限(オンライン、予約が必要)
個別相談など (日時・方法)	
選抜方法	
ゼミナールに 関連する科目	現代社会の消費者行動論、マーケティング、マーケティングリサーチ演習、マーケティングリサーチ、社会心理学、情報社会における計量社会学入門、多変量の統計データ解析、調査集計法 A, 社会調査論, 社会調査演習 1
2021 年度担当科目	現代社会の消費者行動論、マーケティングリサーチ演習、マーケティングリサーチ、マーケティング、総合演習 B、基礎演習 A
授業概要	消費者行動またはメディアに関するテーマを具体的に設定して、卒業論文作成に向けて実証研究を行う(何らかのフィールド調査を実施し、自分でデータを収集する)。テーマの例としては、消費行動とライフスタイル、SNS などアプリの利用、広告の内容分析などがある。アンケート調査、内容分析、テキストマイニング、インタビュー調査、観察調査などの方法の中からデータ収集の方法を選ぶ。具体的なテーマは、教員と相談し、関連する先行研究の論文をいくつか読んでから決める。

ゼミナール紹介

担当者名	石野 正彦
e-mail アドレス	ishino@bunkyo.ac.jp
研究室	3208 研究室 (3号館2階)
在室曜日・時限	秋学期オンライン期間中は、在室日時が未定です。対面授業開始以降、月火水に在室。いつでも、オンラインで個別相談しますので、事前にメールして下さい。⇒ ishino@bunkyo.ac.jp
個別相談など (日時・方法)	別紙の通り
選抜方法	
ゼミナールに 関連する科目	情報サービス産業の理解、情報社会の分析と理解、ビジネスデータ処理演習、情報社会のサービス企画、ビックデータの社会への応用 ※これらの科目を履修していなくても特に問題はありません。未来の情報社会に関心があってスマホのアプリが使えれば、ITの専門知識やプログラミング技術の必要性はありません。
2021 年度担当科目	情報サービス産業の理解、情報社会の分析と理解、ビックデータの社会への応用、キャリア研究C、ビジネスデータ処理演習、情報システムの品質と信頼性、ソフトウェアの構成とテスト、総合演習A・C
授業概要	<p>本ゼミナールは担当教員が専門とするデジタル・IT領域をテーマとして体験型ゼミナールの授業を通して、社会でのデジタル・ITの応用分野や将来性についての理解を深めることを目的とする。なお、本ゼミナールは下記から自由にテーマを選択し、学生自身の関心がある分野を研究する。また、各人のゼミナールの成果は授業や合宿などで発表し、IT実務経験者からの講評を得る。</p> <p>1. ゼミナールの到達目標とコンセプト</p> <p>①デジタル社会の進化に向けた最新技術を体験し、実学応用能力の獲得を到達目標とする。 ②デジタル社会の未来予想と夢を探求する。(注1)実学能力とは社会に出て有効な応用力、発想力、閃き ③IoTやAI活用のビジネスモデルを創成する。(注2)ビジネスモデルとは儲かるアイデア、しくみづくり ※IoT=Internet of Things, AI=Artificial Intelligence・人工知能</p> <p>2. ゼミナールの主なテーマと活動概要 ⇒下記の候補テーマから自由に選択する。</p> <p>①情報社会で進化するスマホアプリ、ウェアラブルセンサー、スマートスピーカー、IoT, AI, 5G, RPA, AI 献立, AI 作曲, 翻訳, 作文, AR, VR, MR, CG, 3D プリンタ等を活用した応用研究や実体験, 各種制作, ②デジタルトランスフォーメーション, サブスクリプション, シェアリングエコノミーのビジネスモデルの創造 ③社会・生活の ICT 活用:AI ファッションコーディネート, 美容・睡眠・脳波測定, 観光チャットボット ④IoT 活用スポーツ科学:活動量, ストレスセンサー等によるデータ分析, VR ライブスポーツ観戦 ⑤電子マネー・キャッシュ社会, Web マーケティング, 「コト消費」のトレンド等の分析と将来動向 ⑥SNS, 動画サイト等の活用によるビジネスモデル(例)YouTube, Facebook, LINE, Instagram 等の活用</p> <p>3. ゼミナールの授業日、ツールと成績評価</p> <p>①毎週水曜日にゼミナール用の教室で実施する。テーマに必要な教材やツールを提供する。 ②研究成果と学習態度が優れているか、学期当初計画の目標達成度により成績を評価する。</p> <p>4. 将来の IT 応用ビジネスへの展開とキャリア研究</p> <p>①各成果のビジネスモデル展開, 事例研究, キャリア研究, スペシャリスト, 企画力の研磨 ②卒論, プレゼンテーション, リーダシップ能力と IT 資格取得, 潜在能力ブレーク方法の獲得 本ゼミナールは将来の情報社会の生活で不可欠な情報技術を駆使してアイデアを創造する。様々な体験で先進情報社会へ飛躍できる実学の養成と IT 活用で情報社会をデザインする!</p> <p>《メッセージ》IT 応用ビジネス体験から、情報社会のニーズにマッチした IT メディア構想や就活に役立て、ゼミ仲間と一緒に考え、実体験を通じて目標成果の達成や作品を制作します。IoT や AI の多種のスマホアプリを巧みに活用して「イノベーション的な発想」を創造しよう!</p>

ゼミナール紹介

担当者名	関 哲朗
e-mail アドレス	seki@bunkyo.ac.jp
研究室	3415
在室曜日・時限	コロナ禍で不定となっておりますのでメールで問い合わせてください Zoomによる説明, 面談, 相談を原則とします
個別相談など	別紙の通り
選抜方法	別紙の通り
ゼミナールに関連する科目	情報社会学科の専門科目など
2021 年度担当科目	プロジェクトマネジメント、成功のプランニング、人間愛と情報社会など
授業概要	<p>情報社会の困ったことを解決することをテーマに学習を進め、卒業論文としてまとめていきます。ゼミや卒業論文のテーマは、教員が理解・指導できる範囲であれば学生の提案を受け入れます（詳細は学科が公開する資料を参照してください）。</p> <p>ゼミや卒研で学ぶべきことの1つは、情報社会学科で学びを他人に説明できるようになることです。これは自らのアイデンティティを得ることであり、職業に就くためにも、その後にも自らの利益の基礎になるものです。</p> <p>ゼミや卒研のテーマの詳細は学科が公開する資料や個別相談で確認してください。概要は以下の通りです：</p> <p>①情報システム開発のプロジェクトマネジメント 情報社会の基盤は情報システムです。1つの情報システムを作るためには数百人の人が複数年の時間を費やす必要があります。比較的大きな組織で、問題を解決しながら進むプロジェクトをどのようにマネジメントすべきかを考えます。</p> <p>②情報社会の到来による従来文化やビジネスの衰退や新興 情報社会になって消えてしまった、衰退してしまったり、無くなったりしてしまった文化や事業、仕事の仕方などが多数あります。書籍、放送、アニメ、ゲームなど日常的なものや、国際ビジネスの変化など、多くの変化がインターネットの存在によって起きています。従来文化を守る姿勢、新しいものに置き換える姿勢から、その在り方について考えます。</p> <p>③その他</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 情報システム開発に関わる裁判事例の分析 ・ 情報教育方法の提案 ・ 情報社会における犯罪の抑止 ・ 食糧問題やエネルギー問題、情報格差による貧困など SDGs に関わる ICT による改善 <p>「情報社会」に関係すれば何でも良いが、2年間の学習の成果に相応しい結果が見込まれるもの、就職活動のエントリーシートに書いて恥ずかしくないもの（就職で不利に評価されないもの）、指導教員がその場で答えが分からないような面白いものを探すために、3年生の春学期を通して全員でディスカッションをしながら決めていきます。</p>

ゼミナール紹介

担当者名	佐久間勲
e-mail アドレス	isao@bunkyo.ac.jp
研究室	3313 研究室
在室曜日・時限	Web サイト (https://w.atwiki.jp/isakuma/) および 3313 研究室の前に掲示します
個別相談など (日時・方法)	別紙参照
選抜方法	別紙参照
ゼミナールに 関連する科目	社会心理学、統計学入門、調査集計法 A・B を履修していることが望ましいです。履修していない場合は、次年度履修することを推奨します。
2021 年度担当科目	社会心理学、コミュニケーション戦略、社会調査演習 I・II など
授業概要	<p>本ゼミナールは、<u>社会心理学研究（実験、調査、内容分析、二次データの分析を実施し、そこで得られたデータに基づいて主張をするタイプの研究）を実施できる能力を育成することを大きな目標とします。</u>社会心理学のうち特定の研究テーマを取り上げることはありませんが、以下の (3) や (4) に挙げられている題目を見ればわかる通り、<u>メディアやコミュニケーションの関連した計量研究が典型的なものとして挙げられます（もちろんこれらに限定しません）。</u></p> <p>本ゼミナール内での具体的な活動は以下の 4 つになります。</p> <p><u>(1) 社会心理学の研究法</u>：テキストや論文を講読しながら、社会心理学の研究方法について理解を深めます。</p> <p><u>(2) グループ研究</u>：グループである特定のテーマで実証的研究を行い、その成果をレポートにまとめて、プレゼンテーションをします。2020 年度と 2021 年度は 3 密を避けるために実施しませんでした。2019 年度は自分たちで質問項目を作成して「地域」「家電メーカー」「アパレルショップ」に対する態度とイメージを測定するという実習を実施しました。</p> <p><u>(3) 個人研究</u>：各自の関心に基づきテーマをひとつ決めてデータの収集し、それらをまとめたものをゼミナールで発表してもらいます。今年のテーマ（仮）は、「新型コロナウイルスが心理的影響に及ぼす影響」「ジェンダーフリー時代の女兒向けアニメの内容分析」「プロ野球選手が監督・コーチに登用されるための規定因」が挙げられています。個人研究を通して、社会心理学の研究内容はもちろんのこと、研究方法、研究論文の書き方についても理解を深め、4 年次の卒業研究に結びつけます。</p> <p><u>(4) 卒業研究のテーマの検討</u>：4 年時に取り組む卒業研究のテーマを検討します。特にテーマは決まっていますが、条件としては自分で収集したデータ、もしくは既存のデータを分析し、それらの分析結果に基づき何かを主張することにしています。これまでのテーマ例としては、「LINE 利用が家族関係に及ぼす影響」「スマフォゲームの依存の原因」「ディズニープリンセスの描かれ方の変化」「子ども向け番組の登場人物の内容分析：仮面ライダーシリーズを対象とした研究」など質問紙調査や内容分析に基づくものが多いです。</p>

ゼミナール紹介

担当者名	西尾 好司
e-mail アドレス	knishio3@bunkyo.ac.jp
研究室	3404
在室曜日・時限	水曜日 事前に必ずメールにて連絡をください
個別相談など (日時・方法)	別紙参照
選抜方法	別紙参照
ゼミナールに 関連する科目	21 年度担当科目と同じです。
2021 年度担当科目	情報社会における問題の発見と解決、情報と企業のイノベーション、ビジネス発想法、 情報社会におけるビジネスモデル
授業概要	<p>目標</p> <p>3 年次のゼミナールでは、秋学期終了時に卒業研究のテーマや研究方針を確定できるようにすることを目標に、4 年次に行う卒業研究のための基本的な事項として、毎週資料・文献を読む、文章を書く、資料（レジュメ）を作成する習慣を作るようにする。</p> <p>春学期の活動</p> <ul style="list-style-type: none"> ・戦略・企画、リーダーシップ、チーム作りなどの組織や人の役割、ビジネスモデルなどを題材とする企業活動に関する事例（ケース）の文献を中心とした輪読を行う。 ・輪読が中心であるが、ゼミ生間のグループワークも行う。 ・企業だけでなく行政（公共）志望の学生にも対応できるように配慮する（地域振興やまちづくりの文献も取り上げる）。 <p>秋学期の活動</p> <ul style="list-style-type: none"> ・春学期の後半から秋学期の最初にかけて 1 : 1 の面談を行い、ゼミ生の関心領域を確認し、関心領域にあう論文やケースをピックアップして輪読していく。 ・研究の進め方、情報・データ収集方法や発表方法の講義を行う ・秋学期の輪読では、各自の関心を具体化し、卒業研究のテーマにつなげていくようにする。

ゼミナール紹介

担当者名	西川和
e-mail アドレス	nishikaw@bunkyo.ac.jp
研究室	3302
在室曜日・時限	月、火(本年度はコロナ対策のため、在室しないことも多いです)
個別相談など (日時・方法)	別紙参照
選抜方法	別紙参照
ゼミナールに 関連する科目	司書課程各科目
2021 年度担当科目	データベース入門、図書・図書館史、基礎演習 B、図書館情報技術論、情報サービス論、情報サービス演習、総合演習 A、総合演習 C、システム開発技法、データモデリング、ゼミナール、卒業研究
授業概要	<p>本ゼミナール担当者の研究範囲は図書館情報学、書誌学、デジタル人文学です。なお、図書館情報学は図書館のサービスや資料に限らず、検索システム、情報行動と幅広い分野を含んでいます。研究範囲内のテーマはもちろん、それ以外の研究テーマについても学生の熱意には応えます。現 4 年生以上(司書課程の開講前に入学)は SNS の利用やゲームクリエイター、報道、ゲームアーカイブについて調べております。</p> <p>ゼミでは 3 年の春学期では各自が興味を持った文献を読んでまとめ、それをもとに議論することを通じて最新の研究を把握します。秋学期は卒業論文に向けて、春よりも明確な方向性をもって論文を探し、内容をまとめたうえで議論をしていくことになります。4 年ではそれまでに得た知識をもとに卒業論文執筆に向けた調査を進めていきます。</p> <p>合宿などの授業外活動はやるかどうかも含めて学生の意思を尊重します。ただ、せっかくゼミでやるなら、ただ遊びに行くのはもったいないので、合宿なら地方の図書館を訪問するなど、ゼミでしかできないようなことをしたいと考えています。</p> <p>論文を探し、読むことは授業時間外に各自で取り組んでもらいます。個人で文献と向き合う時間を多くとるため、地道に努力をする学生や文章の読み書きを好む学生には向いています。</p>

ゼミナール紹介

担当者名	松本修一
e-mail アドレス	shuichi@bunkyo.ac.jp
研究室	1115 研究室
在室曜日・時限	金曜以外の平日はほぼいると思います
個別相談など (日時・方法)	別紙参照
選抜方法	別紙参照
ゼミナールに 関連する科目	特になし
2021 年度担当科目	社会システムモデリング、経済性の科学、等
授業概要	交通関係の専門書および研究論文を交替で読む輪講および各自が教員とともに相談しテーマを決めて行う研究の2つを並行して行うことを予定しています。このような専門的な研究経験を通じ、今後社会に出る際必要とされる、論理的思考能力、プレゼンテーション力など様々な素養を身に付けることが出来ます。また、SPI 対策、エントリーシート作成指導、インターンシップ先の紹介など就職対策も学内でも有数の実績があります。

ゼミナール紹介

担当者名	吉田 知加
e-mail アドレス	cyoshida@bunkyo.ac.jp
研究室	3312
在室曜日・時限	事前にメールにて連絡願います。
個別相談など (日時・方法)	別紙参照
選抜方法	別紙参照
ゼミナールに 関連する科目	「企業活動と情報システム」「情報化要求の分析とソリューションの提案」 「システム分析」「システム設計」
2021 年度担当科目	「企業活動と情報システム」「情報化要求の分析とソリューションの提案」 「システム分析」「システム設計」「総合演習 A」「基礎演習 B」「総合演習 C」 「海外研修 A」「海外研修 B」
授業概要	<p>【ゼミナールⅠ】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 各自が希望する特定分野（業種・業態、技術等）について、教員とテーマを決め、文献調査により研究領域を限定していくことを学ぶ。 ● 指定テキストから研究論文の構成、書き方を学修する。 ● 各自が選定したテーマについての文献調査を行う。 ● データ収集のための調査計画を立案する。 <p>【ゼミナールⅡ】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● ゼミナールⅠでの各自のかテーマについての文献調査を深める。 ● アンケート調査の実施・およびそのデータ分析方法を学び実施する。 ● 「ICT が実際どのような現場の問題をどのように解決していけるか」を知る機会としてオンライン講演会を通じ IT 企業のトップとの接点を持つ。 <p>ゼミナールを通じて、以下の実践的スキルを修得する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 課題（問題）を見つけ、解決する為の独自性のあるテーマを創造する力 2. 仮説に基づく調査・分析を遂行するためのスキル <ol style="list-style-type: none"> (1) 定量的調査分析に必要なスキル <ol style="list-style-type: none"> ① Google Form でのアンケート作成と実施方法 ② 相関分析 (Excle/ R Studio) ③ t 検定 (Excle/ R Studio) (2) 定性的調査分析に必要なスキル <ol style="list-style-type: none"> ① インタビューの項目表作成と実施方法 ② テキストマイニング (KH コーダー) 3. 分析結果を考察し提案する力 4. 論理的な思考力と記述力 <p>※ 本ゼミナールでは学士論文の作成することも目標に、それに必要な問題を見つけ解決する力、分析する力、及び提案する力を培うことを狙いとしています。また、有志による学会論文の執筆を奨励します。</p>

ゼミナール紹介

担当者名	新任 A (情報学、社会・安全システム科学、社会学)
e-mail アドレス	
研究室	
在室曜日・時限	
個別相談など (日時・方法)	
選抜方法	GPA (100 点) : GPA の値を 100 点満点に換算して採点する。
ゼミナールに 関連する科目	
2022 年度担当予定 科目	ビッグデータ解析の社会への応用、情報社会と人工知能、人工知能の社会への応用、 プログラミング入門、プログラミング I など
授業概要	2022 年 4 月着任予定。 個別相談は、学科長の佐久間、または教務委員の西尾が代わりに実施します。希望する学生は必ず個別相談を受けてください。